

# I 市勢の概要

- 福山市の沿革
- 位置・地勢
- 市域

## ●福山市の沿革

1619年(元和5年)8月水野日向守勝成が大和郡山城から備後神辺城に移封されましたが、勝成は、現在の福山城の位置を適地として築城に着手し、1622年(元和8年)8月久松城(葦陽城)が完成しました。そして芦田川を治水し、芦田川河口付近の海を干拓して城下町を造り、地名を「福山」と命名しました。以来、水野氏5代、松平氏1代、阿部氏10代の治世が版籍奉還まで続き、今日の福山市の礎が築かれました。

1889年(明治22年)4月1日の市町村制施行により福山町となり、その後、1891年(明治24年)の山陽本線(笠岡～尾道間)開通、1913年(大正2年)の鞆鉄道開通、翌1914年(大正3年)両備鉄道(現在の福塩線の前身)開通などの輸送、交通機関の発達とともに、町の基盤づくりが進められ、1916年(大正5年)7月1日に我が国70番目の市として福山市が誕生しました。そして、1933年(昭和8年)には近隣10ヶ村を、1942年(昭和17年)には2ヶ村を合併して市域を拡大し、陸海の交通に恵まれた地方都市として発展していきました。

1945年(昭和20年)8月8日戦災によって市街地の約8割を焼失しましたが、市民の旺盛な復興意欲に支えられいち早く都市計画事業に着手し、近代的な市街地が

形成され、戦前を上回る発展を遂げました。

福山市の経済は、もともと地場の繊維産業などの軽工業を中心としていましたが、1961年(昭和36年)10月に日本鋼管福山製鉄所(現在のJFEスチール)の福山市進出が決定し、瀬戸内海における臨海工業都市として脚光を浴びることとなりました。1964年(昭和39年)9月16日備後工業整備特別地域の指定を受け、翌1965年(昭和40年)4月1日に日本鋼管福山製鉄所が一部操業開始されると、関連企業の進出なども進み、本市の都市化は急速に進展しました。1973年(昭和48年)11月8日には第5高炉の火入れにより、名実ともに世界最大規模の製鉄所となり、本市は鉄鋼を中心とした重工業都市へ大きく転換し、飛躍的な経済発展を遂げることとなりました。

1998年(平成10年)に中核市に移行した後は内海町、新市町、沼隈町、神辺町との合併により市域を広げ、現在では中国地方で4番目の人口規模を誇る中核都市に成長しています。

今後は、瀬戸内の十字路に位置する優位性を十分に生かすべく、中国・四国地方における交流拠点都市として求心力のあるまちづくりを進めていくこととしています。

そのため、合併地域を含め、福山市固有の伝統や文化、地域資源に磨きをかけて福山の魅力向上に努めるとともに、備後都市圏の中核都市にふさわしい都市機能の充実や広域連携・交流の促進を図り、誰もが「住んでみたい」、「行ってみたい」と思うような、魅力あふれるまちづくりに取り組んでいくこととしています。

また、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズ、地域課題に的確に対応し、自立した持続的発展力のあるまちづくりを進めるため、まちづくりの指針として2007年(平成19年)6月に第四次福山市総合計画を策定し、「人間環境都市福山」をまちづくりの基本理念にかかげ、生活関連施設や都市基盤の整備、福祉の推進、産業の活性化、教育・文化の振興など総合的な施策展開を進めています。



明治末期の福山(福山城より展望)



現在の中心市街地(福山城より展望)

## ●位置・地勢

福山市は、広島県の東部に位置し、広島市から東方へ 103 km、岡山市から西方へ 58 kmの距離にあります。

市域は東西 29.5 km、南北 45.7 kmの範囲にあり、北部、西部及び南部には 400～500m級の山々が連なっています。その山系を縫って西北から南に貫流する一級河川芦田川及びその水系を中心に堆積された広大な平野が広がり、市街地を形成しています。市南部の海岸線は遠浅な瀬戸内海を擁しており、田島、横島、走島、仙酔島など多島美を誇る景勝地となっています。

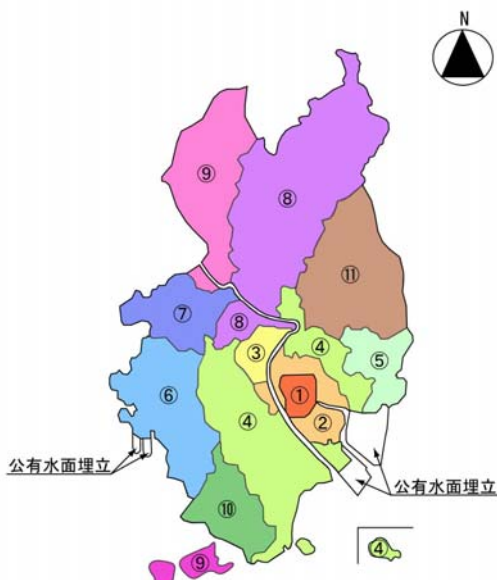


## ●市域

福山市の面積は、1916年(大正5年)7月1日の市制施行当時は5.80km<sup>2</sup>でしたが、1933年(昭和8年)深安郡吉津村ほか9ヶ村、1942年(昭和17年)沼隈郡山手村、郷分村を合併、また1956年(昭和31年)沼隈郡鞆町ほか9ヶ町村を、1962年(昭和37年)には深安郡深安町を合併し、面積は156.57 km<sup>2</sup>に拡大しました。

その後、1966年(昭和41年)5月1日地理的にも経済的にも最も密接な関係のある松永市と合併し、人口205,903人、面積209.02 km<sup>2</sup>の福山市が誕生しました。

### 市域の変遷



また、1966年(昭和41年)8月26日には公有水面埋立により鋼管町が、1974年(昭和49年)2月には箕島沖公有水面埋立により箕沖町が誕生しました。さらに、同年4月1日には芦田町、翌1975年(昭和50年)2月には加茂町、駅家

町を、そして2003年(平成15年)2月には内海町、新市町、2005年(平成17年)2月には沼隈町、2006年(平成18年)3月には神辺町を編入合併して、現在は面積約518.07km<sup>2</sup>となり、市制施行当時の約89倍に達しています。

(単位: km <sup>2</sup> )				
地図番号	年月日	編入または合併地域	編入面積	総面積
①	1916(T 5). 7. 1	市制施行	—	5.8
②	1933(S 8). 1. 1	川口、手城、深津、奈良津、吉津、木之庄、本庄、神島、佐波、草戸の10ヶ村	26.05	31.85
③	1942(S17). 7. 1	山手、郷分の2ヶ村	8.83	40.68
④	1956(S31). 9.30	引野、市、千田、御幸、津之郷、赤坂、瀬戸、熊野、水呑、鞆の10ヶ町村	95.68	136.36
⑤	1962(S37). 1. 1	深安町	20.21	156.57
	1962(S37). 2 ～1966(S41). 4	公有水面埋立	2.19	158.76
⑥	1966(S41). 5. 1	松永市	50.26	209.02
	1966(S41). 8 ～1974(S49). 2	公有水面埋立	9.59	218.61
⑦	1974(S49). 4. 1	芦田町	27.48	246.09
	1974(S49). 6 ～1974(S49). 9	公有水面埋立	0.46	246.55
⑧	1975(S50). 2. 1	加茂、駅家の2ヶ町	115.78	362.33
	1976(S51). 5 ～2001(H13). 5	公有水面埋立等	2.18	364.51
⑨	2003(H15). 2. 3	内海、新市の2ヶ町	65.77	430.28
	2003(H15). 1 ～2003(H15). 7	公有水面埋立	0.02	430.30
⑩	2005(H17). 2. 1	沼隈町	30.93	461.23
	2005(H17). 1 ～2005(H17). 7	公有水面埋立	0.03	461.26
⑪	2006(H18). 3. 1	神辺町	56.81	518.07

(2009年4月1日現在)

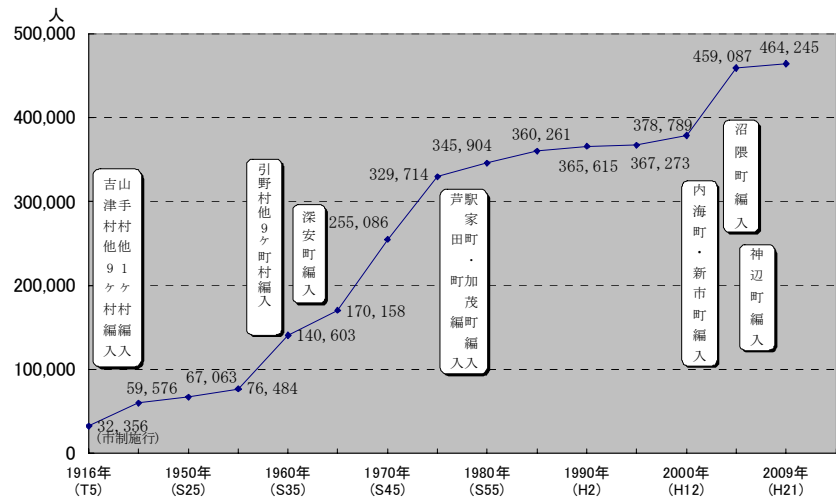
## ●人口

### 1 総人口

人口は、市制施行当時の 1916 年(大正 5 年)に 32,356 人でしたが合併による市域の拡大に伴い、人口も増加の一途をたどり、1940 年(昭和 15 年)の国勢調査では 56,653 人、更に 1942 年(昭和 17 年)の合併時には 60,476 人に達しました。第二次世界大戦の戦況の悪化により一時は停滞しましたが、戦後の復興が進むにつれて人口は急速に増加し、1960 年(昭和 35 年)の国勢調査では 140,603 人、更に 1965 年(昭和 40 年)の日本鋼管福山製鉄所の一部操業以来急増し、1970 年(昭和 45 年)の国勢調査では 255,086 人となりました。

さらに、周辺 4 町との合併により、2009 年 3 月末現在の住民基

本台帳では 464,245 人を数えています。



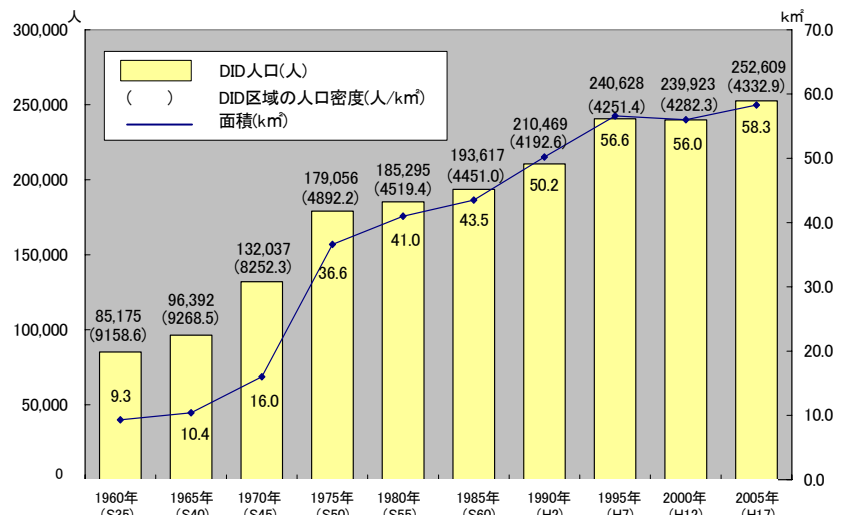
人口推移

### 2 人口集中地区(DID 地区 ※)

人口集中地区は、1960 年(昭和 35 年)の 9.3 km<sup>2</sup> から 2005 年(平成 17 年)には 58.3 km<sup>2</sup> となり約 6.3 倍に拡大し、人口集中地区人口は、2005 年(平成 17 年)の国勢調査では、252,609 人と行政人口の 55.0%を占めており、市域面積の 11.3%に福山市人口の半数以上が居住しています。

※DID 地区

人口密度が 40 人/ha 以上の国勢調査の調査区が集合し、合計人口が 5,000 人以上となる地域。

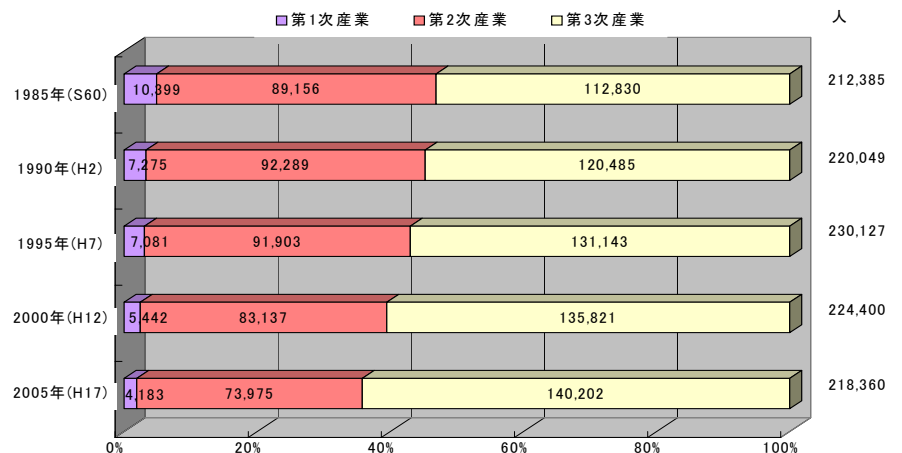


人口集中地区の推移

### 3 就業人口

産業別就業人口の割合は、第 1 次産業、第 2 次産業の減少傾向がみられ、第 3 次産業へ徐々に移行しています。

2005 年(平成 17 年)の調査では、2000 年(平成 12 年)と比べ、第 1 次産業、第 2 次産業ともに、就業人口の減少が続いています。第 3 次産業への就業者数は、2005 年(平成 17 年)現在全産業の 64.2%を占め、就業人口、比率ともに増加が続いています。



産業別就業者数の推移(15歳以上)